

ももたろう



なまえ



むかし、むかし、あるところに、おじいさんと おばあさんが すんでいました。

あるひ、おばあさんが かわへ せんたくに いくと、かわかみから、

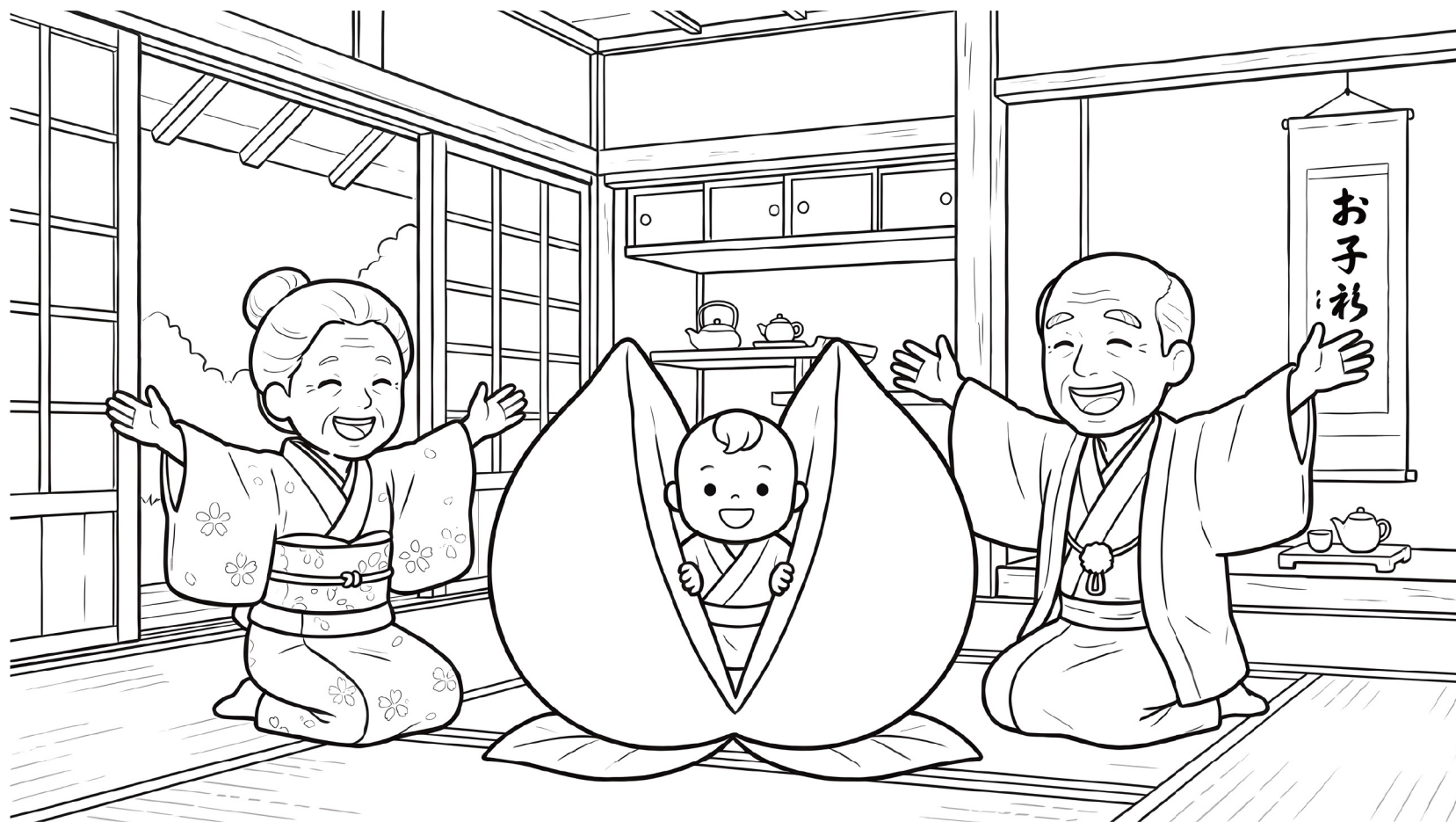
どんぶらこ、どんぶらこ と、おおきな ももが ながれてきました。

「おや、まあ！ なんて おおきな ももだろう。おじいさんの おみやげに しましょう」

おばあさんは、よいしょ と ももを ひろいあげて、いえに もってかえりました。



おじいさんと おばあさんが「さあ、きってみよう」と、ほうちょうをあてたそのときです。
ぱかつ！なんと、ももが まっぷたつに われて、
なかから げんきな おとこのこが とびだしてきました。
ふたりは おおよろこび。「ももから うまれたから、ももたろう にしよう」と なづけました。
ももたろうは、ごはんを いっぱいたべて、
あっというまに つよくて やさしい おとこのこに そだちました。



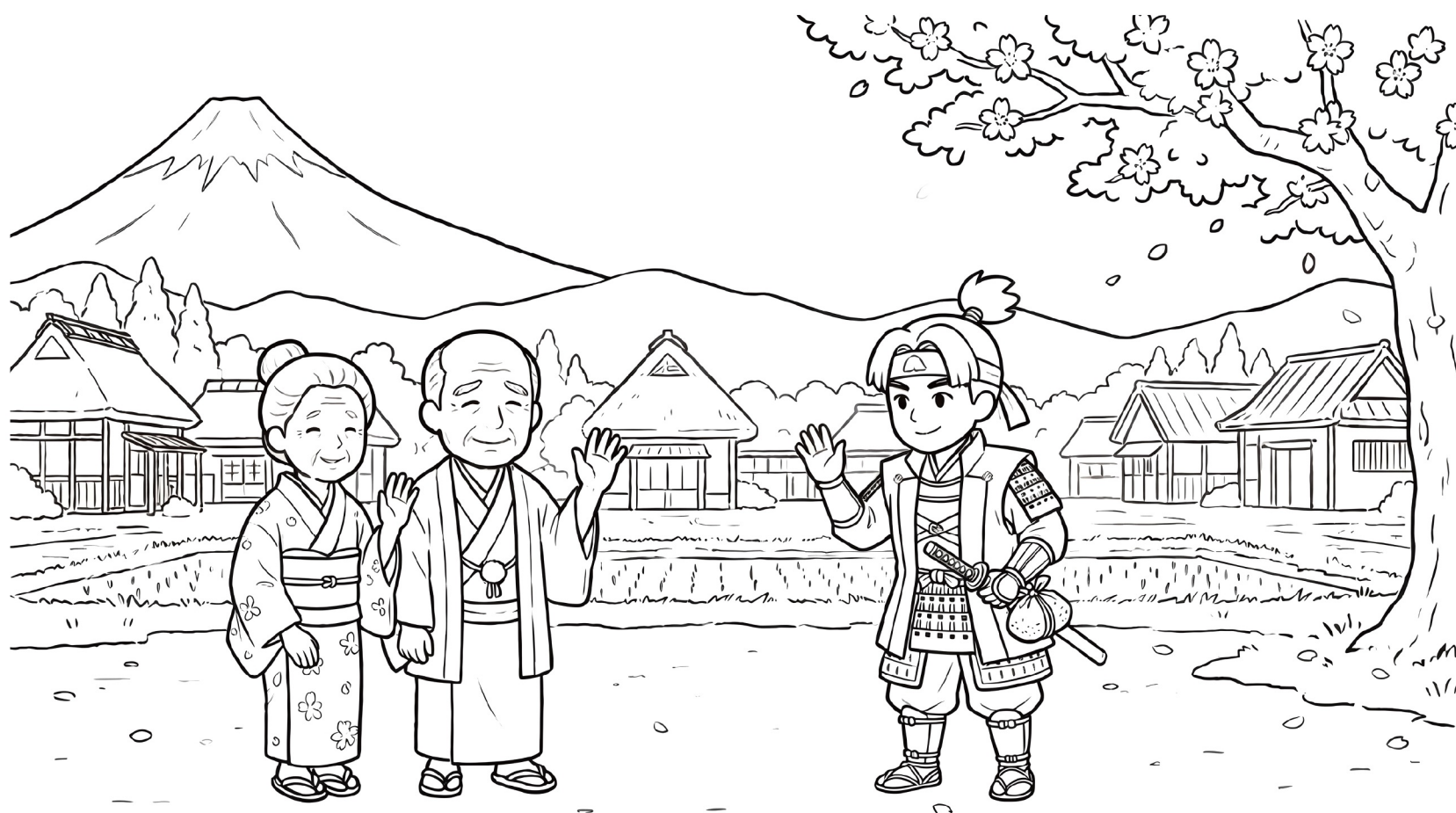
あるひ、ももたろうは いいました。

「おじいさん、おばあさん。わるい おにが むらの ひとたちを こまらせています。

ぼくが おにがしまへ 行って、たいじしてきます！」

おばあさんは、にほんいちの きびだんごを つくって、

ももたろうの こしに つけてあげました。



ももたろうが あるいはいると、いぬが やってきました。

「ももたろうさん、腰につけたものは 何ですか？」

「にほんいちの きびだんごだよ」

「ひとつ くだされば、おともします」

いぬが なかまになりました。

そのあと、きじと さるも やってきて、きびだんごを もらって なかまになりました。



ももたろうたちは ふねに のり、おにがしまへ むかいました。

おにの おしろに つくと、みんなで ちからを あわせます。

きじは そらから おにの あたまを つつき、さるは すばやく ひっかき、

いぬは あしに かみつきました。

そして、ももたろうが「えいっ！」と つよい ちからで おにの おやぶんを たおしました。



「まいりました、もう わるいことは しません！」

おには なみだを ながして あやまり、うばった たからものを すべて かえました。

ももたろうたちは、たからものを くるまにつんで、むらへ かえりました。

おじいさんも おばあさんも、むらの ひとたちも おおよろこび。

ももたろうたちは、いつまでも しあわせに くらしましたとさ。

めでたし、めでたし。

